

I 目指す学校

1 目指す学校像

- (1) 底力のある学校 <組織力の向上>
- (2) 子供の可能性を引き出す学校 <主体的に自己を高める>
- (3) 家庭・地域と共にある学校 <社会全体の教育力を高める>

2 目指す児童像（教育目標）

- (1) くふうする子（知）・・・重点目標
- (2) はげましあう子（徳）
- (3) じょうぶになる子（体）

3 目指す教師像

- (1) 社会の常識をもち、教育公務員として全体の奉仕者であると自覚し行動する教師
- (2) 常に研修に励み、指導力の向上を目指す教師
- (3) 家庭との連携を充実し、児童理解に基づいた指導により、個々の児童の成長を図ることのできる教師
- (4) 教育課題の解決に向け、組織的な学校運営に参画する教師

	R5 学校関係者評価（学運協）学期末	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	わからない
【学運協アンケート】保護者アンケートと同じ内容		1	2	3	4	5
1	学校の経営方針	100%	0%	0%	0%	0%
2	特色ある取組（由井二っ子班活動）	83%	17%	0%	0%	0%
3	由井中学校と合同で行う取組（CC 大作戦等）	100%	0%	0%	0%	0%
4	避難訓練などの安全管理	100%	0%	0%	0%	0%
5	道徳等、自他共の大切さを認め行動できる教育	67%	33%	0%	0%	0%
6	いじめ未然防止、早期発見、早期対応等	67%	33%	0%	0%	0%
7	学校は落ち着いて学習できる雰囲気	83%	17%	0%	0%	0%
8	よりよい学校生活を送れるような取り組み	67%	33%	0%	0%	0%
9	キャリア教育	67%	33%	0%	0%	0%
10	学習環境の整備	67%	33%	0%	0%	0%
11	学校だよりやホームページ等で情報提供	67%	33%	0%	0%	0%
12	地域運営学校、地域とともにある学校づくり	100%	0%	0%	0%	0%

<服務について>

組織的な学校運営の推進と服務について

（1）各職種に応じた職務を適切に執行する。

- ① 業務進行管理の点検・整理、業務進行の際の事案決定手順の徹底を図る。
- ② 市の環境基本計画に基づき、コスト削減、資源節約に全教職員で務める。

（2）服務事故防止に努める。

- ① 体罰や交通事故等の服務事故の発生を未然に防止するため、職員会議等において月1回以上、研修を実施する。
- ② 私費会計及び、個人情報の取り扱い規定を徹底し、毎月の確認と改善点の検討を推進する。

指標内の（ ）％

12月末 学校評価保護者アンケートより
（肯定的意見：あてはまる・ややあてはまる）

II 中期的目標と方策

◎今年度の取組目標と方策（1）教育活動の目標と方策（2）重点目標と方策を示す。本計画は、令和5年度の教育課程の重点事項を明確にしたものである。

構 想	重点事項	中期的な取組目標	目標達成のための具体的な手立て	指 標
学校の底力をつける <組織力の向上>	安全教育、防災教育の充実	児童が危険を予測し回避する能力等を高める。	○「日常的な安全指導」における一声（ひとこえ）指導の徹底を図る。 （都安全教育プログラムの活用） SNSによるネットトラブルの防止、携帯電話の家庭ルールの呼びかけを行う。 ○ 児童の発達段階に応じて「自助」「共助」の知識と実践力を高める防災教育の充実を図る。	○自己評価 ○安全に対する児童の意識の変化 防災（生活指導・肯定的意見95％）
① 「皆で見守り、皆で育てる」を合言葉に毎週木曜の職員夕会で、生活上の課題を共有し、安全指導・生活指導を継続して積み重ねていく。→通年を通して実施し、情報共有した。 ② 特設単元の安全授業を組織として全学級、各学期1回ずつ系統的に積み重ねる。1学期「八王子市のいのちの大切さを共に考える日」として、生命尊重をテーマに道徳の授業を行う。 交通安全、生活安全、災害安全などの授業について、東京都安全教育プログラムを参考にして発達段階に沿った指導を重ねていく。→計画的に実施した。今後も継続して指導していく。 ③ 保護者へSNSについて書面等で注意喚起し、家庭ルールをつくって子供に利用させるよう促す。→SNS対応の書面を保護者へ配布。家庭での注意喚起をさらに促す必要あり。△				

	道徳教育、 キャリア教育の充実	特別活動等の充実と 再構築を図る。	○児童会、委員会活動、たてわり遊び等を通して、系統的にリーダー、フォロワー等の育成を図る。発表の場を工夫し、児童の自尊感情を高める。→実施。特にたてわり ○自尊感情や自己肯定感を高める「いいところ応援計画」を発達段階に沿って1学年1実践継続して取り組む。（あったか言葉、ブレーストーミング、ボランティア、いいところ見つけ発表等）	○発表や活動の場を提供 ○自尊感情や自己肯定感に関する意識調査 （「由井二っ子班活動等」肯定的意見96%）
	① 児童会、委員会活動、たてわり遊び等を通して、系統的にリーダー等の育成を図る。また、縦割り班長会で班ごとの教員担当者が活動内容を丁寧に指導し、発表の活躍の場を広げ、自尊感情を高めるように配慮していく。たてわり班活動として、全校で「片倉つどいの森公園」へ行く。ゲーム交流を行う活動を通し、郷土で楽しい思い出をつくれるようにする。→実施できた。 ② 年間35時間の「特別の教科 道徳」の授業を要に、各教科・活動と連携し道徳教育の充実を図ってきた。特に全校で時期を設定し、「命を大切にする学習」を関連付けて指導していく。また、特別活動においてはキャリア・パスポートを保護者と連携しながら今年度も積み重ね、子供たちへ励ましを続けていく。→計画通り実施した。今後も「生命尊重」を大切に指導していく。 ② 2学期の学校公開において外部講師を招聘し「自尊感情を高める」講演会を予定する。→ 八王子なかよし幼稚園園長に講演を依頼し、保護者アンケートも良好であった。			
	環境美化の推進	課題意識をもち、具体的に動くことのできる体制の整備を進める。	○教室、廊下の掲示物の工夫、花植え、栽培活動等を通して、環境の変化に気付くよう、指導を工夫する。 ○ 集中し、日常の清掃活動ができるよう指導の徹底を図る。 →3月6日以降、次年度の外装工事について報告予定。	○学校関係者評価、外部評価 （環境美化・肯定的意見85%）
子供の可能性を引き出す ＜主体的に学び自己を高める＞	GIGA スクール構想の推進 （授業改善）	組織として、質の高い授業づくりを目指す体制を構築する。	○授業の土台となる系統的な指導内容の徹底を図る。 ○校内研究を通し、ユニバーサル・デザイン等を意識した「わかりやすい教え方」への改善を図る。 ○新学習指導要領の意義を踏まえると共に、OJT指導体制や教職員の相互の学び合いを活発にする。	○児童による授業評価等 （授業の工夫・ICT等肯定的評価93%）
	① 研究を通して、GIGA スクール構想を進めていく。 1学期：校内研究として、全学級が一人一台の学習端末を活用した授業公開を行い、ユニバーサルデザイン等の研究を通し、GIGA構想を共有していく。 誰もが分かりやすい授業をめざすうえで、「ユニバーサルデザイン」の視点を基盤として授業を行う。→毎年、繰り返し指導していく。△ ICT活用は全学級向上した。 ② 2学期：「プログラミング教育について」富士電機ITソリューションと連携を図り教員研修を実施し、授業に活用していく。 ＜年間を通して＞ 教員の指導力向上をめざし、外部講師もお呼びし、年間10回程度の校内研修を実施し、改善に努めていく。昨年度、講師より校内研究でご指導をいただいたユニバーサルデザイン等の基本的な考え方や課題のある児童への対応について新しい職員と共に実践に努めていく。→苦手な教員が、よく活用できるようになってきている。			

	生活指導の充実	授業規律の確立と基本的な生活習慣の定着を図る。	○児童理解、人権意識を基盤とした指導を通して、児童がより豊かな人間関係を結ぶための場づくりを進める。 ○聴く指導の徹底を図り、ＴＰＯに応じた言動ができるよう指導する。 ○「特別の教科 道徳」の授業を要に道徳教育を積み重ねると共に、「いじめ防止基本方針」に沿っていじめ防止に努める。	○学校関係者評価 （「特別の教科 道徳」肯定的意見９２％ 「いじめ防止８６％」）
	① 授業中や朝会等、あらゆる場所を通して、話を聴く（聞く）姿勢を繰り返し指導していく。昨年度は、感染症対策で、立って発表したり、話し合ったりする場面が少なくなってしまった。改めて授業中では、スタンダードの「はい」（立つ）「～です。ます。」を基本とし、言語環境を整え、正しい言葉使いや礼儀等の指導を心掛けるようにする。また、「由井二生活スタンダード（教師用）」等を共通理解し、指導を継続する。 → 学年・学級により定着の差があるが、繰り返し指導している。△ 生活指導部を中心にスタンダードを確認し、職員全体で共通指導を継続して図っていく。 ② 「いじめ防止基本方針」に沿って、学期毎の「ふれあい月間」のアンケート実施や日常の観察を行うなどして、いじめ対策委員会を適切に行う。市教育委員会、関係機関、スクールカウンセラーとも連携していく。毎週木曜日 6 校時の「いじめ対策委員会」等を活用し、情報共有と対応を図る。 →スクールカウンセラーが出勤する木曜日に合わせ、6 時間目を授業せずに校内いじめ対策委員会の時間を設定し、2 年目となった。各学年毎の情報を共有し、継続案件は3 か月見守りを行い、指導状況を確認し合った。そのおかげで、早期対応につながっている。また5 校時終了後、会議前までの時間を「子供と向き合う時間」として、聞き取りや子供の話に傾聴する時間としたこともよいと考える。 ③ふれあい月間アンケートの中で、「相談できる大人のひと」の存在を把握する。各学期の始業前にはオンライン学活を行い、健康等の確認や連絡を行うようにする。 →児童の安否、健康確認を学期開始前にすることでよいスタートが切れた。今年の3 学期については休業日の関係で、C4 t h 連絡とした。			
	特別支援教育の充実	組織的な指導体制を確立する。	○スクールカウンセラーや特別支援教育コーディネーターを核とした校内委員会を中心に支援を検討し、授業レベルで個に応じた具体的な指導を進める。	○個別の指導方針の明確化（特別支援教育肯定的意見 72％）
	① 毎月の校内委員会を中心に、支援の必要な児童への対応を協議していく。参加者は、管理職、特別支援コーディネーター2 名（うち養護教諭一名）、スクールカウンセラー（SC）、該当学級もしくは学年担任である。また通級指導の担任にも、可能な範囲で参加をしてもらう。今年度も1 学期に、5 年生全員がスクールカウンセラーと面談を実施していく。 →スクールカウンセラーと児童の面談は、今年度は3 年生、5 年生を個人、2 年生を5 名程度のグループで実施した。特に2 年生は、今後相談しやすくするために、SC と顔なじみになるように設定した。 ② 通級指導学級、きこえとことば教室と担任が連携する巡回訪問を学期毎に実施した。通級学級の教員に、本校児童の授業の様子を観察してもらうと共に、個に応じた指導ができるよう情報交換をする。市教育センターの就学相談室とは、再度連携を徹底したい。片倉台小学校等と連携を図りながら、なかよし教室（特別支援教室）の活動を保護者へ伝え、指導の充実を図っている。今年度も継続・新規を含め約3 0 名から「なかよし教室」を円滑にスタートできるように準備をしている。さらに子供の実態を把握し個に応じた指導を図れるよう努める。→実施。			
	体育、健康教育の充実	体力の向上と基本的な生活習慣の定着を図る。	○体力テストの分析結果を体育の補強運動に取り入れるなど指導を工夫する。 ○基本的な生活習慣の定着のため、あいさつ、歯みがき、早寝、早起き、朝ごはん等の重点実施期間を設け、家庭と連携し習慣化を支援する。	○翌年の調査結果 ○重点実施期間の達成状況
	① 昨年度、オリンピックレガシーに位置づけ、4 年生がベースボールクラシックとしてプロ野球選手に投げ方を教えていただいたり、5，6 年生がプロバスケットチームの選手にバスケットボールを教えていただいたりすることができた。今年度も継続して指導を受けられるように申し込んでいく。→計画通り実施し、児童がプロスポーツ選手と楽しい授業を経験できた。 ② 寒い冬の週に、なわとび週間を設け、休み時間に縄跳びを挑戦しようとする児童の姿がたくさん見られるようになった。今年度も、スポーツテストの結果を受けて、低学年から授業の準備運動に補強運動（投げる等）を取り入れたり、体をしっかりとほぐしたりして運動に取り組んでいく。→なわとび月間：長なわ練習は、各学級毎に休み時間を利用し活発に行った。 ③ 担任と養護教諭が連携し、食事・睡眠等の重要性を学び、基本的な生活習慣を身に付けさせるよう健康教育を指導する。今後も「朝の生活習慣調べ」「歯磨き指導」について家庭と連携を取り、基本的な生活習慣を確立できるよう啓発に努める。→時々朝食をとっていない子が若干名いるので、今後も家庭と連携を図り対応していく。△			

家庭・地域と共にある学校づくり 〈社会全体の教育力を高める〉	学校運営協議会との連携	学校の情報発信と学校運営協議会のより一層の充実を図る。	○学校だより、ホームページ等の作成を組織的に行う体制作りを進める。学校日記等を学年ごとに作成し、保護者の意識啓発として効果的な活用を進める。 ○学校運営協議会を学校と地域の相互課題を検討する場としての機能をもたせるなど、保護者、地域と共に教育活動を推進する。	○目標更新回数、課題解決の過程 (情報発信・肯定的意見 94%)
	① ホームページの学校日記等で、日常の児童の生活や活躍を日々紹介した。その日記の中で、学校評議員の方々の関係機関・団体や各種ゲストティーチャーによる学習支援等も紹介していく。 今後もコロナウイルス対応として、有効に保護者への情報提供にホームページやメール配信の活用をしていく。→実施。 ② 学校運営協議会と連携を図りながら、放課後子供教室の拡充及び漢字検定、夏休み補習等を実施する。 今年度より「放課後子供教室」の運営団体が変更となる。円滑な実施ができるように、市と株式会社「明日葉」と連携を図る。学期毎の打合せも継続する。 →学運協委員による支援で、通年を通して情報共有し週5日実施できた。			
	地域と共にある学校づくりの推進	9年間の学びと育ちを地域と共に考える。	○授業改善につながる、小・中一貫教育のより一層の充実を図る。 ○幼稚園、保育園、学童保育、地域スポーツ、文化活動の団体等との連携を深める。	○学校関係者評価 (小中一貫の取組 肯定的意見 97%)
	① 小中一貫教育の学区は、由井中学校、由井第二小学校、由井第三小学校、片倉台小学校の4校が連携している。例年はその4校が各学期毎と夏季休業中に集まり、小中の定期的な情報交換、や授業研究を行っている。本年度は中学校が、「メディア・リテラシー」をテーマに2年目の研究を行う。そこで、中学校と連携授業などを通して研修を深める。 保幼小交流では、「由井さゆり保育園」と「星の子保育園」の3者で交流を行う予定である。職員や1年生との交流等を通して保小連携を継続していく。 →保幼小3者職員夏季交：職員間の交流により、双方の様子が分かり、連携を深めることができた。その後、幼児と児童の授業交流や幼児の展覧会参観等を活発に行った。 ② 由井地区青少年育成委員会と連携した「CC大作戦」を学期ごとに参加し、美化活動に努め健全育成を図る。様々な団体から外部のゲストティーチャーを招き、授業の充実を今後も継続していく。外部講師より英語活動・習字・昔遊び・国際交流活動・読書指導・八王子車人形体験・福祉（介護ホーム）等の指導をいただく。(可能な範囲で、コロナ前の活動に戻していく。) →昨年度までコロナのため実施できなかった「八王子車人形体験」【3年生】を実施することができた。習字の外部講師による教員研修も12月に初めて実施した。			
	学び合いの場の充実	地域の協力者との積極的な連携を図る。	○学校司書を活用し、利用マナーを指導し、保護者と連携を図り、稼働率の高い学校図書館にする。 ○図書ボランティア、学校司書と連携を図り、読書活動を活発にする。	○貸出冊数、実施回数、児童の変容
	① 図書ボランティアによる図書室の整備活動に感謝を申し上げたい。→実施。コロナ明けとなり、活動の協力が昨年以上に得られた。 ② 図書司書による、季節に合わせた読み聞かせ活動や本の紹介等を継続していく。→毎週、実施。教員達のおすすめの本を掲示する等、展示を興味が得られるよう工夫する機会を設けた。			

※次年度以降の課題と対応策

- 【学習】 八王子市学力調査（4年～6年）では、1学期から全体的に伸びてきている。後半は、市平均を越えるような国語・算数の力が着いてきている。個人差があるので、学習指導は今後もユニバーサルデザインを大切に、誰もが分かりやすい指導を全職員で行っていく。来年度、日本語指導の必要な児童が5名となるので、巡回指導やサポートを手配していく。また、特別支援教室に通う児童には、通級の片倉台小学校教員とよく連携を図りながら個に応じた指導を継続していく。
- 【生活】 現在、社会的な課題でもある「SNS等の活用」において、本校でも一部の児童に友達とのトラブルケースが見られる。由井中学校と連携し、中学校が行っている「シチズンシップ教育」の出前授業を次年度も行っていただく等、小中一貫で指導していく。同時に、家庭へSNS利用の「使用アプリにはそれぞれ年齢制限があること」「保護者が法的な対応をしなければならない」等、注意喚起啓発に努める。
- 【施設】 待望の「校舎外装工事」が、次年度の夏から行われることが決定した。工事中は、安全に配慮し円滑に行えるよう児童、保護者に周知し、市と対応を進めていく。
- 【地域】 青少年育成委員会による年3回のCC大作戦（地域清掃）もコロナ禍から、以前のようにできるようになった。3回目は、保護者、地域、児童が82名、教員も8名参加した。今年度から、PTAが一端、活動休止となり、ボランティア化に変更となった。児童の健全な育成ができるよう保護者、地域と長く円滑に連携することを努めていく。